

鳴門渦潮 甲子園へ

▽高校野球徳島大会決勝

阿南光	000	020	010	2	5
鳴門渦潮	000	010	200	3x	6

(延長十回タイブレーク)

阿南光に6-5
7年ぶり8度目

第106回全国高校野球選手権徳島大会最終日は29日、徳島市のむつみスタジアムで決戦が行われた。鳴門渦潮が延長十回タイブレークの末、6-5で阿南光にサヨナラ勝ちし、7年ぶり8度目の夏の甲子園出場を決めた。



サヨナラ勝ちし、ホームベース上に駆け寄って喜ぶ鳴門渦潮の選手たち
〓むつみスタジアム(山田旬撮影)

鳴門渦潮は、2点を追う延長十回裏、無死一、二塁から始まるタイブレークで犠打を決めて1死二、三塁とし、古住宗一郎の中越えタイムリー2点二塁打で同点。さらに3番森高祐吏の左前打でサヨナラ勝ちした。

2点を追う五回、端村七聖の中前打に犠打を絡めて1死三塁とし、藤原大輔の犠飛ですぐさま1点を返した。七回は、先頭の福山匠利の左翼線二塁打と中山仁翔の内野ゴロで1死三塁とし、端村のスライズで同点。2死後、藤原の左翼線二塁打で端村が生還し、1点を勝ち越すなど、中盤から優位に試合を進めた。先発岡田力樹は伸びのあるストレートをコーナーに投げ分け、5失点で10回を投げきった。

阿南光は1点を追う八回、3番福田修盛の右中間スタンドに飛び込むソロ本塁打で3-3の振り出しに戻すと、タイブレークの延長十回、犠打で1死二、三塁とし、2番福嶋稟之介の左前タイムリーで2点を奪い5-3とリードしたが、その裏、エースの吉岡暖がタイムリー連打を浴び3失点。春夏連続の甲子園出場を逃した。

全国高校選手権は、8月7日から17日間(休日3日含む)、兵庫県西宮市の甲子園球場で開かれる。組み合わせ抽選会は4日に行われる。